



一般社団法人 福井県中小企業診断士協会

診断ふくい

第44号

<2026年3月発行>

〒910-0296 坂井市丸岡町熊堂 3-7-1-16 福井県産業情報センタービル 3F TEL: 0776-68-0170 FAX: 0776-67-7429
ホームページ: <https://www.sindan-fukui.jp/> Eメール: info@sindan-fukui.jp

「変化を力に、地域と共に歩む — 令和8年度への展望」



会長 川嶋 正己

会員の皆様、ならびに関係機関の皆様には、平素より当協会の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和7年度も締めくくりを迎えようとしています。振り返れば、北陸新幹線の福井開業から2年が経過しました。開業当初の熱狂が落ち着きを見せる中で、このインフラをいかに「一過性のブーム」に終わらせず、福井の日常的な「産業の基盤」へと定着させるか。まさに正念場の一年であったと感じています。

当協会としても、これまで推進してきた「観光の産業化」の視点をさらに深め、県内各地の自治体や支援機関との連携強化をつとめて参りました。また、グローバルな政治情勢の不安定化や物価高騰、深刻な人手不足、さらには生成AIの社会実装やカーボンニュートラルへの対応といった、構造的な変化が中小企業の経営を直撃しています。こうした不透明な時代において、私たち中小企業診断士が“経営の羅針盤”として果たすべき役割は、かつてないほど重要性を増しています。

この一年、会員の皆様におかれましては、それぞれの専門性を活かした実務支援や調査研究、また協会の諸行事へ精力的に取り組んでいただきました。特に、若手・新入会員の皆様が多く加わっていただいたことで、ベテラン会員の確かな知見と融合し、当協会の活動に新たな厚みが加わっていく兆しが見られること、大変心強く感じております。皆様のこれまでの献身的な活動に対し、心よりねぎらいと感謝を申し上げます。

さて、まもなく幕を開ける令和8年度は、これまでの成果をさらに具体的な「地域経済の活力」へと転換していく年になります。従来の価値観が揺らいでいるような現在だからこそ、私たちは単なるアドバイザーに留まらず、変化を恐れず挑戦する経営者の「最良の伴走者」であり続けなければなりません。

新年度においても、「診断士の力を高め合い、前向きに、確実に活動する」という姿勢を堅持し、会員相互のスキルアップと交流の場をより一層充実させていく所存です。皆様一人ひとりのスピード感あるアクションが、福井の未来を創る力となります。

引き続き、皆様の積極的なご参加と、変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げ、年度末の挨拶とさせていただきます。

委員会活動報告

◆事業推進委員会

従来に引き続き支援機関等との連携・交流を図り、受託事業の維持拡大と継続的で安定的な活動実施に向けて、広く営業活動を推進します。

コロナ禍で中断していました「事例検討会」は、名称を「事例検討発表会」に変更し3か月毎に開催します。従来の事例検討に加えて会員診断士が経験した事例を発表することで、会員のスキルアップを図ります。

また、中小企業の大きな課題の一つである「事業承継」の支援に関しては、福井県事業承継・引継ぎ支援センターと連携し、事業引継ぎ後の組織統合（PMI）に向けた支援を展開します。



委員長 竹内 真一

◆事業企画委員会

事業企画委員会では、11月4日の中小企業診断士の日にあわせた中小企業診断士としての活動成果や支援事例の発表の場としてのシンポジウムを開催し、日々の診断士活動を通じた経営改善や新事業展開、事業再構築、事業承継、AI活用等の支援事例の情報発信を通じて、経営の参考にしていただくとともに、「中小企業診断士」の認知度向上・地位向上に取り組んでいます。

また、各種支援団体等との連携による事業を開催し、「地方創生」に貢献していきます。



委員長 白崎 貴之

◆総務・コンプライアンス委員会



委員長 松田 博史

令和7年度も総会や理事会の運営、他委員会と連携した各種行事の実施支援を行ってまいりました。中小企業診断士として企業に対して属人化のリスクを指導しますが、協会運営においても同様の課題があり、標準化・仕組化の必要性を感じます。様々な工夫はしておりますが、さらなる改善が必要です。

令和8年度はkintone（キントーン）を活用した受託事業案件の管理にチャレンジしたいと考えております。kintoneを介して会員の皆さまと事務局で最新の情報を共有・管理することで、より確実に効率よく業務を実施して頂ける環境を整えていきます。これを標準化・仕組化のベースとして横展開を図っていきたくと思います。

また、こうした取り組みを外部に発信することで、安心して事業発注頂ける基盤整備に繋げていきます。

◆広報委員会

広報委員会では、経営コンサルタントとして唯一の国家資格である中小企業診断士の認知度向上を図るため、協会活動に関する情報発信・開催報告を積極的に行って参ります。

診断ふくい（年2回）の発行、協会ホームページ掲載（例会・理論政策更新研修・養成塾・視察研修等）を継続的に行って参ります。

各分野で活躍する診断士の活動を「見える化」することで、我々中小企業診断士と中小企業診断士協会の活躍の場を広げて参ります。

今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



委員長 佐藤 さとる

◆例会・研修委員会



委員長 大森 健

当委員会では昨年度より、従来の「知識習得（インプット）」中心の活動から、実務に即した「会員診断士による事業者の支援事例の共有」へと舵を切りました。

令和8年度もこの方針を踏襲し、会員の皆様の実践力向上に寄与する場を提供してまいります。あわせて、懇親会や視察研修を通じた会員相互のネットワーク構築にも注力いたします。

皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

◆資格更新委員会

理論政策更新研修を令和7年9月6日（土）に福井商工会議所ビル コンベンションホールにて、会場出席96名、オンライン出席45名の計141名の受講のもと開催致しました。

今回は4名の講師をお迎えし、「福井県の経済情勢および県の支援施策等について」（中小企業政策）、「イノベーション～時代への適応～」（イノベーション活動）、「できることから始めるブランドづくり」（事業再構築）、「『選ばれる人、企業、地域』をつくる」（人材戦略）をテーマに講演いただきました。

また、今年も会場とオンラインのハイブリッド形式で開催させていただく予定です。皆様のご受講をお待ちしています。



委員長 永田 幸也

【理論政策更新研修 開催予定】

日時：令和8年9月5日（土）8:20～13:00

会場：福井商工会議所ビル（福井市西木田） ※オンライン受講も可能

◆観光産業化研究会

【共同代表 峠岡 伸行・川嶋 正己】

観光産業化研究会では、「めがねのまちさばえ」が10年で認知度・ブランド力を急速に高めた取組の検証（仮）」をテーマに調査研究活動を進めており、鯖江市役所、鯖江商工会議所を訪問してこれまでの取組みや特長的な事業等をヒアリング調査するとともに、ブランド力向上のキーパーソンとなった(株)ポストクラブ代表取締役の小松原一身氏、(株)キッソオ代表取締役の吉川誠一氏にも、自社や業界有志での具体的な取組みや自身の考えるビジョンや想いについても詳しく伺ってきました。



次年度に向けて、ヒアリング調査に加えて関連データ収集にも取組み、ブランド力向上が地域や業界に与えた効果や他産地への展開等についても研究を進めていきたいと考えています。

◆事業承継研究会

中小企業診断士による事業承継支援の拡大に向けて、福井県事業承継・引継ぎ支援センターと連携し、各種セミナーを行ったり、中小企業診断士が事業承継の分野で活躍できるよう勉強会を開催しております。

令和8年度も、連携している福井県事業承継・引継ぎ支援センターにおいて、親族承継計画の作成支援ができる診断士を必要としておりますので、皆様に活躍していただけるよう勉強会を行ってまいります。

併せて、福井県事業承継・引継ぎ支援センターでの事業承継の事例発表会も実施できればと考えています。

皆様の参加を、心よりお待ちしております。



委員長 佐々木 孝美

協会活動の紹介

◆地方創生シンポジウム（11月）

日時：令和7年11月10日（水）14:00～16:30

場所：福井商工会議所国際ホール

参加者数：70名

11月4日の中小企業診断士の日に合わせ、11月10日に当会主催で地方創生シンポジウムを開催しました。

今回のシンポジウムでは、「中小企業の持続的な発展を支援する中小企業診断士～変革のパートナーとして～」をテーマに、農業分野におけるAI活用支援、事業承継支援（親族承継計画策定+M&Aを活用した新分野展開）、SDGs経営導入支援と、幅広いテーマで各企業の代表や担当者の方々にご登壇いただき、事例紹介を行いました。

ご参加いただいた方々からは、「大変参考になった」「活かしていきたい要素が多数あった」など、大変うれしいご感想をいただきました。

来年も皆様に喜ばれるシンポジウムを開催できるよう検討を重ねてまいります。

事例①：AI活用支援～生成AIを活用した農業経営～

○講師：所沢ゼロファーム 代表 佐藤 勇介 氏

担当診断士：中野 慧

事例②：事業承継～「ふくしん」の味を受け継ぐとともに、次世代へ事業の承継～

○講師：コサカ株式会社 代表取締役 森 裕一 氏

○講師：福井県事業承継・引継ぎ支援センター 統括責任者 坪川 光弘 氏

担当診断士：加藤 永俊

事例③：中小企業へのSDGs経営導入～持続可能な経営のために～

○講師：スタイル・オブ・ジャパン株式会社 代表取締役 大森 一生 氏

○講師：株式会社横山商会 総務課 主任 大田 快津馬 氏

担当診断士：川嶋 正己



◆松田博史(当会会員)が「日本中小企業診断士協会連合会会長賞」を受賞(11月)

日時：令和7年11月5日(水)

場所：東京ガーデンパレス 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-7-5

令和7年11月5日、東京ガーデンパレスで開催された中小企業経営診断シンポジウムの第一分科会（中小企業診断士による経営革新支援事例論文発表）において、松田博史氏（当会会員）が、「日本中小企業診断士協会連合会会長賞」を受賞いたしました。

松田氏の発表テーマ『自治体の課題に合わせた「事業者支援パッケージ」の確立』は、大野市から当協会が受託した土産品等の商品開発事業を事例としたもので、中小企業の実態に即した実践的な支援事例として高く評価され、地域に根差した中小企業支援の模範となるものとして、この度会長賞の受賞にいたりました。

松田氏は、長年にわたり福井県内の中小企業・小規模事業者に対して、経営改善、事業承継支援、創業支援など幅広い分野で実務支援を行っており、今回の受賞はその地道な取り組みが全国的に認められたものです。



■松田博史氏の受賞コメント：

「本支援事業では中小企業診断士4名がチームとなって取り組みました。この度の受賞は、そのチームメンバーや大野市、そして市内事業者の協働による成果だと感じております。地域資源を生かした高価格帯商品の創出を通じて、地方から全国に支援モデルを発信できたことを大変嬉しく思います。これを励みに、人口減少問題に直面した地方で奮闘する事業者の支援に邁進してまいります。」

(参考) 当協会会員の受賞歴について

- ・2015年 川嶋正己 中小企業庁長官賞
支援機関診断士のチームによるハンズオン経営革新支援 ～「福井モデル」の確立～
- ・2016年 加藤永俊 中小企業診断士協会 会長賞
紙1枚にまとめる「経営革新支援」フレームワーク
～事業計画の「見える化」と実践的ロジカル思考技術の習得～
- ・2020年 川嶋正己 中小企業診断士協会 会長賞
ICC0（イコー）分析 ～観光戦略立案のための新フレームワーク～
- ・2023年 川嶋正己 中小企業基盤整備機構理事長賞
支援者のための中小企業のSDGs経営導入プログラム
～持続可能な中小企業経営のためのマニュアル第一章～
- ・2025年 松田博史 日本中小企業診断士協会連合会 会長賞
(今回) 自治体の課題に合わせた「事業者支援パッケージ」の確立

※直近 10 年で同一協会から 4 回目の受賞は、会員数 5,000 名を超える東京都協会に次ぐもので、会員数 100 人未満の県としては異例の実績となります。
(当福井県中小企業診断士協会会員数は 97 名)

◆例会（3月）「DX（IT）を活用した事業者支援の事例」

日時：令和 8 年 3 月 13 日（金）18:00～
場所：ハピリン（2 階イベントホール 福福小屋）
参加者数：25 名

講師：

北島 宏樹 会員（(同) システムなんでもサポート）
志田 遼太郎 会員（リコージャパン（株）福井支社）

3 月 13 日（金）、ハピリン 2 階の「福福小屋」にて 25 名の方にご参加いただき、令和 7 年度第 3 回例会を実施しました。

今回のテーマは「DX（IT）を活用した事業者さんの支援事例」とし、講師として北島宏樹会員（(同) システムなんでもサポート 代表）と、志田遼太郎会員（リコージャパン（株）福井支社）のお二方にご登壇いただきました。



事例①：エッセンシャルワーカーへの DX 支援（北島会員）

北島会員からは、介護・運送・建設業界における DX 活用事例についてお話しいただきました。これらの業種はいわゆる「エッセンシャルワーカー」として社会インフラを支える労働集約型の産業ですが、現在の人手不足は深刻な状況にあります。

そのため DX 化の流れは不可欠であり、導入による生産性向上の仕組みについて深く理解することができました。

事例②：事業承継と LTV を重視した DX 支援（志田会員の発表）

志田会員からは、リコージャパンにおける「事業承継」を絡めた DX 支援事例を発表いただきました。従業員 10 名程度の中小企業における具体的な事例をもとに解説されましたが、特に印象に残ったのは同社の姿勢です。

DX によって顧客の生産性向上などの目的が達成できないと判断した場合には、無理に自社製品を勧めることはしないといます。短期的な利益よりも、LTV（顧客生涯価値）を重視するその姿勢に、強い共感を覚えました。

総括：手段としての DX

お二人の発表に共通していたのは、「DX は目的ではなく、あくまで手段である」という点です。

これは当たり前のことのようにですが、実際の現場では「DX を導入すること」自体が目的化してしまうケースも散見されます。今回の例会は、その本質を改めて再認識する貴重な機会となりました。

事例発表会後は、わらび（福井駅前店）に場所を変えて、懇親会を実施。多くの会員が集まる貴重な機会でもあり、大いに盛り上がりました。

◆北陸三県会議を福井県で開催（3月）

日時：令和8年3月6日（金）

場所：A O S S A

毎年、富山・石川・福井の3県協会が持ち回りで開催している「北陸三県会議」が、3月6日（金）に福井市の「AOSSA」にて執り行われました。

当日は、石川・富山両県協会の会長を含む役員各2名、および福井県協会の三役5名が出席。さらにオブザーバーとして、日本中小企業診断士協会連合会・松枝会長にもご出席いただき、各協会の活動状況や共通課題について活発な意見交換が行われました。



《主な議題と協議内容》

◆会員のスキルアップと案件管理

受託事業に従事する診断士の資質向上と、協会による適切な進捗・品質管理について。

◆受託単価の適正化

診断業務における受託単価の向上に向けた取り組み。

◆研究会活動の活性化

最新トレンドである「生成AI」をテーマとした研究会の状況共有。

◆各県トピック

大学寄付講座の実施状況報告、kintone を活用した事務局運営の効率化（富山県）
能登半島地震対応への診断士活動の現状報告、BCP 作成支援の事業化計画（石川県）

◆行政書士法改正への対応

法改正に伴う業務区分明確化への対応方針について。

次回は富山県での開催を予定しております。

【重要】本会役員をかたった「なりすましメール」にご注意ください

会員の皆様におかれましては、日頃より当協会の活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。現在、当協会の川嶋正己会長や役員の名をかたった不審なメールが、複数の会員宛てに届いているとの報告が寄せられています。

以前の注意喚起時よりも手口が巧妙化しています。改めて内容をご確認いただき、被害防止への徹底をお願いいたします。

■ 最新の「なりすまし」の特徴

これまでの「不自然な肩書き」や「強引な LINE 誘導」に加え、最近では以下のような手口が確認されています。

・自然な日本語によるアプローチ 「仕事の件で少しご協力いただきたい」など、一見すると通常の業務連絡に見える文面で送られてきます。

・「返信先アドレス」の偽装 送信者名は「川嶋正己」と表示されますが、実際のメールアドレスや返信先が**フリーアドレス (gmail.com 等)**や無関係なドメインになっています。

■ 会員の皆様へのお願い

不審なメールを受信した際は、以下の対応を徹底してください。

1. 安易に返信しない 心当たりのない依頼や、少しでも違和感を覚える場合は返信を控えてください。

2. 「表示名」ではなく「アドレス」を確認 送信者の名前だけでなく、必ず背後のメールアドレス（特に返信先）をチェックしてください。

3. 迷ったら事務局へ確認 「会長からの急ぎの連絡かも？」と判断に迷う場合は、返信する前に当協会事務局まで直接お問い合わせください。

事務局より：

協会役員が、個人のフリーアドレスから業務依頼や金銭・SNS 誘導に関するメールを突然送ることはありません。皆様の冷静なご対応をお願い申し上げます。

新入会員紹介

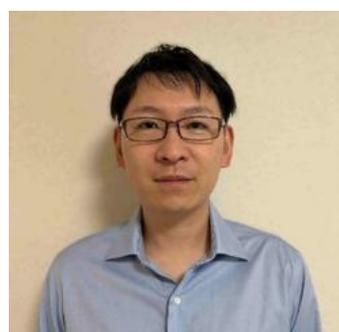


伊勢谷 竜平
(いせたに・りょうへい)

このたび、福井県中小企業診断士協会に入会いたしました伊勢谷竜平と申します。長年勤務してまいりました地域金融機関を定年退職後、昨年鯖江市にて独立開業いたしました。

前職では支店業務のほか、外貨両替からオプション取引に至るまでの外国為替業務全般、市場部門における資金・有価証券取引、さらに日々の勘定処理から計算書類の作成、有価証券報告書の提出に至るまでの主計業務などを担当してまいりました。これまでに培った経験を生かし、企業支援に取り組むとともに、地域振興に関わる新たな分野にも挑戦していきたいと考えております。

まだまだ未熟ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



木村 竜太
(きむら・りゅうた)

はじめまして。福井県越前市在住の木村と申します。現在は製造業の会社で勤務する傍ら、中小企業診断士として地域企業のお役に立てるよう学びを続けております。

仕事では製造業に携わっていることもあり、特に財務・会計の視点だけでなく、現場の状況やものづくりの実態も意識しながら経営を考えることを大切にしています。今後は経営者の皆様のお話を丁寧に伺いながら、実務に役立つ支援ができる診断士になりたいと考えています。

地域企業の皆様と長くお付き合いしながら、少しでも経営のお役に立てる存在になれるよう努めてまいります。協会の活動を通じて多くの先輩方から学ばせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



佐野 孝矩
(さの・たかのり)

令和7年度に資格登録・入会させていただきました、佐野孝矩と申します。生まれも育ちも越前市で、数年間は北海道・新潟・埼玉などを経て、再び福井に戻ってきました。現在は地元越前市の製造業で社内 SE としてシステム開発やインフラ整備を行っております。

過去には Web マーケティングとして Web サイト作成・SEO 対策などの支援を実施した経験もあり、微力ながら県内企業の IT 化・DX 化に役立てればと思っております。

創業や経営に関する経験はほとんどないので、皆様から学まなばせていただきながら成長できればと思っております。よろしくよろしくお願いいたします。



多田 士朗
(ただ・しろう)

皆様、はじめまして。多田士朗と申します。福井市在住です。
20代で中小企業診断士を取得後、企業内診断士や勤務社労士としての経験を積み、現在は53歳で社会保険労務士事務所を運営しております。実務経験を活かし、今後は特に人事評価制度や労務DD、そしてJASTI監査に注力していきたいと考えております。

診断士としては経営戦略策定支援、事業計画作成や補助金業務に携わっており、両資格のシナジーを最大限に発揮した多角的な支援の提供が目標です。本会でのネットワーク作りを通じて、地元福井の企業発展に貢献できるよう邁進いたします。

趣味は無線と登山ですが、現在は育児に奔走しており、趣味の時間をいかに捻出するかが目下の「経営課題」です。どうぞよろしくお願いいたします。

編 集 後 記



令和8年に入り1回目の診断ふくい（第44号）を発行いたしました。新年度を目前に控える中、自治体や支援機関において新たな施策が執行されることに伴い、地元企業の経営支援を主業務とする中小企業診断士への期待が今まで以上に高まっていることを実感しています。

当協会では、中小企業診断士の認知度向上を図るとともに、受託事業の獲得を行い中小企業診断士の地位向上に貢献して参ります。

今後に向けた幅広いご意見・ご要望を、心よりお待ちしております。

[ホームページ](#)

[facebook](#)

福井県診断士

検索

